

講師 株式会社スチームシップ 藤山雷太氏 宝探し若手起業家

(留学生)

私はこの講義見る前に地域の宝探しはどんな意味なのか気になって講義を見ようと思いました。でも、意外とこの講義を見て色々なことを考えるようになりました。私も今まで、日本に留学しているので一度は日本の首都である東京に住みたいと思いました。しかし、この講義で地域「だから」できることがあるのではないかという話を聞いて何か私が今まで持っていた固定観念を潰す感じでした。私はどんな国も首都が中心で地域はただ首都を支えることではないかと思いましたが、地域ならではの特征があるので地域も主体になることもできるだと思えるようになりました。また、講義の大学生活についての部分も非常に役に立ちました。なぜなら、今コロナの影響で大学生活を送るのが難しいので、勉強をする時にモチベーションが感じにくいからです。さらに、藤山雷太先生の話し方も面白くて講義に集中しやすかったです。

私は、今回の講義の最後の方に先生がおっしゃった「目の前のチャンスを掴んでいくこと」、「人との縁を大切に」ということを大切にしていきたいと思いました。コロナの関係で大学の授業がオンラインになり、気付いたらもう7月でした。最初は、オンライン授業など慣れないことばかりで不安しかありませんでした。しかし、このコロナでの経験がこれから何かしらの役に立つチャンスになると思い、まだ続くだろうけ

ど頑張ろうと思いました。チャンスをしっかり掴めるよう、どんなことにも一生懸命取り組もうと思いました。

また、大学生になってあまり対面で授業が受けられず、友達づくりが難しいです。それでも、オンラインの中でペアになった人や、対面授業の時に喋った人が声をかけてくれることがあります。そんな風な「人との縁」というものを、これから絶対に大切にしていこうと思いました。

この講義では波佐見町で取り組みを行っている藤山雷太さんの話であった。講義の中で心に残ったのは藤山さんが言われた「価値がないと、無視されるよ」という言葉だ。藤山さんはこの言葉をきっかけに仕事の取り組み方を変えたり、自分に何ができるのかを考えたりしたとあった。自分だからできることやこの場所だからできることを考えるのが重要であると感じた。そして自分が考えたことを多くの人に発信する行動力がなければいけないのだと感じた。今、大学に入学してすでに4か月が経った。まだ学校に行くことも少なく人と関わる機会がない。そのような中でも何か自分だからできることを探さなければならないと思った。学校に行くようになればたくさんの人と関わっていくことも増えていく。今はまだ自分だからできることを探せずにいる。藤山さんが講義の中で大学4年間はあっという間だとおっしゃっていたので早めに自分が楽しく活動したり考えたりできるものを探したいと思った。

私は今回の講義でスチームシップという会社があることを知りました。私も改めて考えると、長崎からの人の流失は確かに多いなと思いました。長崎に住んでいる人は都

会で働きたいという人が多いのは事実であり、このままだと長崎の総人口に影響してしまい、これが県全体の活性に衰えが出てしまいます。私はスチームシップの仕事内容を聞いてみて、これが本来あるべき会社なのではないかと思いました。また、楽しくするための工夫やクルーの方たちが精神的に苦しくならないような工夫がされていて、素晴らしい企業の会社であるなと思いました。また地域活性のために様々な取り組みをされており、楽しみながら仕事ができるという本当の意味で夢のような職場であるなと思いました。私は今回の授業で楽しみながらかつ地域のためになるような会社が全国に存在すれば、結果的に日本全体が良くなるのではないかと思いました。

私は藤山さんの講義を聞いて、都会に出ることだけがすべてじゃないということを知りました。私の周りでは、高校の時から都会の大学に行ったほうが良いという価値観はありました。しかし、藤山さんの講義で、長崎をはじめとした都会とは言えない地方にも、都会に負けない魅力があるということを知りました。都会から地方に戻るというのはなかなか勇気がいるなと思いました。今やその考え方も古くて、都会とか地方とかに関係なく事業のチャンスがあるところに行くのが大切なんだなと思いました。また、都会でできることをするのではなく、地方でできることを探すという考え方はとても新しいなと思いました。確かに地方でできることがあると、長崎の深刻な問題である人口流失も防ぐことが出来るし、最近問題として挙げられている東京一極化も緩和することが出来るというのがすごいと思いました。私もこれからは、都会のことだけでなく、地域でできることはないか考えてみたいです。

今回このような講義をしてくださり、ありがとうございました。

私は、今回藤山雷太氏の講義を受講しました。藤山氏は、とても明るくて魅力的な方で話の内容にどんどん引き込まれていきました。私は、steamship の事業についてとても興味を持ちました。ふるさと納税を通して、地域を活性化させ、その町の魅力、ブランド価値を高めているということが印象に残っています。また、地域と密着して行うため、すべての自治体で寄付金額が右肩上がりとなっている実績が凄いなと思いました。地方の特産品（波佐見焼）などを多くの人に見てもらえるような工夫が凝らされていて地域の宝を都会の人に知ってもらえるようになっているのだと思います。大学生となってもう前期の授業がほとんど終わりました。長崎大学に入学してたくさんの素晴らしい方々と出会えて、本当に良かったです。この出会いに感謝し、一日一日大切に過ごしていきたいと思います。いろいろなことに挑戦し、充実した大学生活を楽しんでいきたいです。

まず私は、この講義を選んでよかったと思いました。この講義の方はすごく元気だったので、私自身本当に勇気をもらえたと思います。まず、私も今は地元である長崎県で仕事をしたいと思っています。生まれは関東ですが、育てられた期間が長崎の方が長く、就学時はずっと長崎だったので、ここまで私を育ててくれた長崎に恩返しをしたいからです。しかし、この講義の方は、価値を見出すために地域を選んだとおっしゃっていました。私が一番印象に残った言葉でした。「価値がない人間は無視される。」この言葉には私もぞっとしました。言われてみてたしかにと思う部分もあれば、自分は今のところ価値はないと思ったからです。なので、社会に出たときに価値をもつこ

とができるように、私は大学生である今のうちにボランティアやサークル、アルバイトなどいろんなことに挑戦していろんなことに興味を持てるようになり、いろんなことを経験し、社会に出てからいろんなことに役立てていきたいと思いました。ありがとうございました。

こんなにワクワクする、笑ってしまう講義は初めてでした。地域「だからこそ」できる取り組みを見つけて実行されている Steamship の皆様を見て、私も何かやってみたいと本当に思いました。

そこで、私が今考えている長崎の問題点を発表します。私は長崎県出身なのですが、長崎に住んでいていつも思っているのは「古着屋さんが少ない」ということです。古着屋さんに行きたいときは、いつも福岡の天神まで行って買っていました。長崎には、私と同じような思いをしている若者が少なからずいるのではないかとと思っています。そのため、長崎に古着屋さんを沢山集めれば、福岡のように若者たちの集まる場所ができるのではないかとと思っています。若者が古着屋さんのために他県から集まってくれば、ランチをとるためにカフェに行ったり、古着屋さんの近くにある長崎の歴史ある町並みを見て「長崎って歴史も感じられて、古着屋もカフェも沢山ある素敵な街だな、住みたいな」という風に思ってくれたりすることに繋がるかも知れません。まだ行動しようという気持ちは正直起きていないのですが、大学生の内にチャンスを見つけて勇気を出して行動してみたいと思っています。

今回の講義で最初のほうに「価値とは」ということが出てきて、その一つは「希少性」

であると言われたときに、自分は長崎か福岡などの都会で教員になるかどっちかで迷っているのですが地方で教員をする人が減っている中で、長崎で教員になることも希少性ではないのかと思うことができました。また、Steamship CULTURE の中にある「1日を三分割にする」という考え方や「家族が1番・仕事が2番」という考え方、「学びに貪欲」という考え方は生活において大事であるということは十分に分かっているのですが、生活してしまうとどうも忘れがちなことでもあるので、将来教員として生活する中でこのような考え方はしっかりと大事に持っておきたいと思いました。地域の宝を探すということで、東京などの都会になく長崎などの地方にしかない魅力を探すと考えきれないくらい素晴らしいものがあると思います。たとえば出島や軍艦島など。そういったものに目を当てていくとやっぱり長崎っていいところだなと思えるようになりました。

とても前向きな気持ちになる講義だった。一番印象的だったのは、地域「でも」ではなく地域「だから」できることを、という話だった。この文章は地域という言葉、自分という言葉に置き換えても言えることだと思った。みんなにもできて自分でもできること、ではなくみんなにはできなくて私だからできること。私にしかできないことをこれからはたくさん探していきたい。長崎に住む私だからこそできることは、長崎のあまり知られていない隠れた魅力を発信していくことになるだろう。私は佐世保に住んでいたため、波佐見や西海に住む友達とも高校で一緒に過ごしていた。話を聞いたり、実際に遊びに行ったりしたこともあるため、おしゃれな雑貨屋さんやカフェなどがあることも知っている。このことをしっかりしたプレゼンとかではなくても、

大学の友達との何気ない話の中にでもいいから伝えていきたい。

大事にしたと思う言葉もたくさん出てきた。「目の前のチャンス」と「人との縁」を大切にする、という言葉である。あっという間の大学生活、目の前のチャンスを逃してしまわないように、常に挑戦したい。また大学のように、自分とは全く異なる夢をもった人たちが集められている、という空間は、この先経験しないことかもしれない。少し話すきっかけがあたのならそれも何かの縁だし、自分と人とのかかわりをもっと大切にして、これからどんどんそのかかわりを広げていきたい。

私はもともと東京の大学を志望していて、就職は東京ですつもりでした。

理由はほかでもなく、「長崎と東京では東京のほうが発展していて自分のやりたいことができる」と思ったからです。私は将来メディア関連の仕事に就きたいと考えているからです。

しかし、今回の講義を聞いて自分は言い訳を作っていただけだと思いました。長崎でも自分のやりたいことはできるのに、自分の努力が足りていないだけなのだと思います。確かに長崎より東京のほうが発展している部分もありますが、東京になくて長崎にあるものもたくさんあります。「長崎にいるからできない」のではなく、「長崎にいるのにできない」だったことに気づきました。長崎に足りない部分に目をつけるのではなく、長崎のいいところ、長崎で発達しているものに目をつけて、自分自身も努力して、将来長崎以外で就職するとしても4年間は長崎の大学に通うので長崎で自分のやりたいことを自分の責任で、自分のやりたいようにやってみようと思えた講義でした。

今回の講義は今までの講義と違ってとてもテンションが高い講師の方で、楽しく受講することができました。私の実家の近くの波佐見にこんな会社が存在していることを初めて知って驚きました。とても自由で楽しそうに仕事ができる会社で魅力的でした。私は「大人とは？」と質問されると、「自律している人」と答えると思います。「価値がないと無視されてしまう。」という回答は私にはなかった発想でとても斬新で衝撃を受けました。私はまだ大学1年生ですが、これから社会人になったときに「自分の価値」を見出せるのかどうかがとても不安です。これから大学生活残り3年半で自分の強みになるようなところを見つけ出したいと思います。また「地域の宝探しカンパニー」の方針として1日を3分割するという発想も新鮮でした。仕事とプライベートな時間をしっかりメリハリ付けて分けてあり、家族との時間を優先させるという働き方にとても魅力を感じました。もっと地域に自由で働きやすい会社が増えればいいなと思いました。

地域「でも」ではなく地域「だから」できることを追及している Steamship 藤山さんのお話を聴いて、長崎に住んでいて良かったなと感じた。藤山さんのおっしゃる通り、長崎は可能性がたくさんあると思う。離島に行けば美しい海が広がり、自然豊かな風景は県内のいたるところで楽しむことができる。このポテンシャルの高さをどう生かして仕事にするのかを考えることは、人口流出を防ぐためにも地域創生のためにもとても重要なことだと私は思う。藤山さんの会社の写真を見て一番に思ったのが、皆がラフな格好をしてとても楽しそうに笑っているということだ。長崎

にこんな会社が増えたら、都会に行かなくても楽しい仕事をすることはできると感じ、若者が長崎に戻ってくるかあるいは長崎に残って就職するということも考えるのではないかと感じた。これからの私たちは with コロナの社会を生きていく。社会が大きく変わろうとしている今は、働き方を見直す良い時期でもあると思う。長崎に素敵な会社を作るという方法だけでなく、都会に本社があってもオンラインで仕事をできるというシステムを構築し、若い人に地域に戻ってきてもらうという方法も模索していくべきではないかと考えた。

僕が今回この映像を選んだのは間違えて選んでしまったことがきっかけです。僕は教育学部に所属しているので教育関連のえいぞうを見ようとしていたのですが間違っ
て違う映像を見ていた、かつそれに途中まで気づいていませんでした。しかし僕は途中に気づいたのにも関わらず最後まで見てしまいました。それは藤山さんの話が面白かったからです。藤山さんは興味をもってもらうために話していると思うのですがそれが僕にあっていて楽しく最後まで聞くことができました。話の内容についてなのですが僕は「大人のいうことなんて聞かないで自分がやりたいことをするのが1番楽しい」という言葉が1番印象に残りました。誰かに指示されて動くより自分がやりたいことをするのが責任感をもってやれるからという理由らしいのですがなるほどと思いました。僕は将来教員を目指しているのですがこういったことを活かして僕もやりたいことを挙げ、それを授業をするうえで活かしていけたらなと思います。また今回の講義を受けて僕たちの地域である長崎にはたくさんの宝が眠っているのではない

かと思いました。これらを活かすか殺すかは将来を担う僕たちにかかっていると思うのでそのことを意識して生活していきたいです。

まず地域の宝探しという観点で長崎をかんがえることは初めてだった。そして「大人とは価値のない人間は無視される」この言葉に私は衝撃を受けた。今まで学生の身だったのでここまで責任感のある話を考えたことはなかったからだ。また雷太さんが申しあげていた価値を希少性とみなす、そして東京に人口が流入していく中希少性とは地方にあるのではないか。このような発想は今までの私にはなかったものであったため非常に面白かった。スターバックスの話も興味深かった。思えば地方についてそれぞれの地域の特徴や希少性を生かした観光を売り出していることを考えると納得できる。また長崎の人口流出問題について問題視されているのは私の耳にまで伝わっている。そしてその解決策を活気ある職場を作ること、地域から変えることという考えも初めて聞いたものだった。しかし考えると確かに活気ある職場に勤められるのならとても魅力的だしそれなら私自身長崎に永住したいと考える。このように雷太さんの話からたくさんの初めてのことを聞いたので全体的にとっても面白かった。

「大人になるってどういうことだと思う？」という問いに、最初私は「子どものお手本になること」だと思っていたが、講義の中で「価値がないと、無視されるよ。」という答えが提示された。確かに周りの人に流されてついて行くだけだったり、やる意味

を見出さないまま働いたりしていると、価値のない自分が出来上がり、結果的に大人になることができないのではないかと思った。

価値のあることをするために藤山さんがおっしゃったことに、都市ではない地域だからこそできることをやるということがあった。地域から未来を変えていくという試練に向けて、地域が積極的に選ばれる社会をつくることを目標に、地域に根差した活動や事業を行っている藤山さんを見て、私の夢である小学校の教師でも生かせることではないかと思った。小学校はそもそも地域の子どもたちが通う場所なので、その地域だからこそできることを見つけやすく、実行しやすいと思うので、地域に根差した教師になれるように大学 4 年間で地域と教師のかかわり方なども学びたいと思った。

私は「大人になるってどういうことだと思う」という一言について考えた時、藤山さんと同じ様に、「責任感があること」「精神的に成長すること」だと思った。しかし、ある人が言ったのは「価値がないと、無視されるよ」という言葉で、衝撃を受けた。そして、自分について考えてみた時、私はまだ何もできず、社会の知識もなく、価値が無いと感じた。藤山さんは自分に何の価値もないと考えた時、東京で馬車馬のように働き、価値とは希少性だと気づくなど行動を起こしていて、私も積極的に行動を起こせるような人を目指そうと思った。

藤山さんの言葉で印象に残ったことは、目の前にあるチャンスをいかに掴んでいくかが凄く重要であること、人との縁を大切にすること、色んなチャレンジをすること、である。4 年間は長いと思っていたけれど、考えてみれば、この前入学したと思ったのにもう前期が終わってしまっていて、私は意味のある、自分が成長できるようなこ

とを何もできなかった。大学生の間ほど自由に様々なことに挑戦できる時間は無く、一瞬で終わってしまうので、自分のやりたいことをがむしゃらにやってみようと思う。そして、人との縁を大切にすることは今までしてきたつもりだったけれど、外的要因があったからこそ出会えていて、最後に繋がるという言葉にとっても共感させられた。確かに、同じクラスの子や先輩と出会えることは奇跡だと考えるので、これからはもっと人との縁を大切に、様々な人と積極的に関わっていこうと思う。さらに、色々なチャレンジをすることの話では、失敗は全然してもよく、周りの大人に相談してもいいが、大人の言うことは無視しろ！やりたいことをやりまくれ！という言葉に驚いた。大人に相談するので相談を素直に聞くことが大事だと思っていたが、自分の責任なのでやりたいことをやりぬくことが大事なのだと分かった。そのため、これからは失敗を恐れずチャレンジしてみることにする。

最後に、藤山さんの講義は淡々と話すのではなく、生き生きとして、話しかけるように話してくださるので、とても聞くのが楽しく興味が持てた。そして、藤山さんのお蔭で考え方が変わり、挑戦しようというやる気を出すこともできた。私は、steamship という会社の活動を応援しようと思う。

まず、藤山さんのパワフルさに驚きました。また、藤山さんの出身が私と同じ佐賀県であったことに親近感がわきました。と思っていたら高校の先輩にあたるのが判明してびっくりです。

地域の「ポテンシャル」について語られていましたが、ちょっとここには書ききれ

ないくらいにはっきりと問題意識が私と同じです。未熟者の私がこうしたことを言うのも身の程知らず感が否めないのですが…。以前、つくる邸の岩本さんの講義においても書いたような気がします。藤山さんの講義内容はさらに私の考えていることに近く、大袈裟に言えば、ほぼ私であったようにも感じています。

とにかく、私自身が将来「したいこと」をやらせてくれる、もしかすると就職希望先になるかもしれない会社を見つけてしまった気がします…！

まだまだ修行の身、学ぶべきことはたくさんありますが一つの将来のプランが立てられそうです。ありがとうございます。

レポート内にも書いておりますが、とても大きな起点になる講義でした。 いまだに興奮冷めやらぬ状態です。 実は気まぐれでこの動画を再生したのですが、ここまで印象に残るとは全く思っていませんでした…。ありがとうございました。

長崎で宝探しをしているという団体のお話を聞きました。地域活性という、なんだか制限だらけで楽しくないというイメージを持っている人がとても多いと思います。しかし、実はそんなことはないということを今回学ばさせていただきました。長崎が持つ魅力を探求することを宝探しというあたりとてもワクワクさせられました。働きかたに対する考え方も時代の最先端を行っていると思い、長崎でもこんなことができるのだと感動しました。地域でもできることという考え方でなく地域だからこそできることをしようという考え方がとても心に響きました。このように楽しく考えようとする思考回路が一番大事なのだと思います。そうすることによって今まで誰も見つけることのできなかった長崎の「宝」を見つけていかれているのだと

思いました。今までの講義とまた一風変わった雰囲気での講義で聴きながらとてもワクワクさせられるものでした。これから大学生活そして地域を支える人物になるにあたってこの気持ちを大切にしていこうと思います。

私は今回の地域の宝探しに取り組む若者たちという動画を聴講して地域から未来を変えていくということについて学ぶことができた。そこでは、地方の方がポテンシャルが高いと考えているということやそういった考えに行きつくのには地方には独自の文化や風習があるから唯一無二性ということで価値があると考えていることを学ぶことができた。会社の方針として misson として地域から未来を変えていく・vison 地域から積極的に選ばれる社会を作る・core mind 財を遺すは下、事業を残すは中、人を残すは上なりという考え方を持っていることを学ぶことができた。上の misson vison core mind から分かるようにまず地域に人を定着させようとしているのがわかった。確かに人がいなければ何も始まらないと私も考えている。そういった地域に人を残すことによって地域を発展させていこうという考えに深い感銘を受けた。

藤山雷太さんが「地域にこそ宝がある」とおっしゃっていたのがとても印象に残りました。私は、正直なところ、一回は地元を出て都会で働いてみたいと思っていました。確かに、地元ではないところに出ると今まで自分が知らないことをたくさん知ることができると思うし、経験値は上がると思いますが、雷太さんのおっしゃる通り、希少性はない気がしました。また、雷太さんの「地元で活気のある企業があると、戻ってきてくれる」という言葉も印象に残っています。株式会社スチームシップでは、従来

あるような働き方ではなく、ワーク・ライフ・バランスのとれた働き方をされていて、とても魅力を感じました。業務内容においても、ふるさと納税の支援など、地域の魅力を再発見する、地域の力となるような内容で、楽しそうですし今必要とされていることだと感じました。講義全体を通して私が思ったことは、もっと地域のことについて知りたい、地域の魅力について考えたいということです。何気なく過ごしている地域にこそたくさんの宝があるということを知ったので、発掘したいと思います。そして、そんな魅力を生かすことのできる大人になりたいです。

まず、「地域の宝探し」というフレーズから僕は、各地の埋蔵金を掘り当てる、といったような業務を行う会社だと思っていました。しかし実際は、ご当地のいいものを PR するというような地域活性につながる業務をしている会社で驚きました。また、藤山雷太さんの話し方からあまりちゃんとした会社には思えないという印象だったのですが、実績をみるとどれも、地域のためになる企画ばかりで、この人たちは本気で地域活性のために動いているんだなあと思いました。特に驚いたのが、ふるさと納税を最初の企画から、なにからなにまで引き受け、そして、引き受けたすべての自治体で右肩上がりを実現しているということです。この業務を引き受ける際に地域に密着して業務を行うために2時間圏内の自治体しか引き受けない、というのをきいたとき、この会社の地域への思いの強さを感じて、こういう会社で働けたらすごくやりがいがあるだろうなと思いました。また、将来、このような何かのために全力で取り組むという働き方を目標にしたいと思いました。

地域の宝探しに取り組む若者たち動画の中にあった”大人に言われたある一言”の（価値がないと無視される）という言葉を見て、今自分は大人から見てどんな価値があるのだろうと深く考えた。今の自分を見てみると親のすねをかじりながら大学生であることをいいことに、好きなことばかりしているだけの何にも人様の役に立っていない人間である痛感した。だから、これからは自分のしたいことを楽しむだけでなく、自分が今していることがどんなものを生み出すのかだったり、どんなものを得ることができるのかなどを考えながらクリエイティブに行動していこうと思った。またこのように行動するために藤山さんが言っていた、8つの項目の一つである学びに貪欲な人間になろうと思った。どんなことでも吸収しようとする姿勢でいることでよりクリエイティブな人間になり様々なことを生み出すことによって、人様にとって価値のある人間になれることができると思った。

食堂をなくして、地域のカフェや飯屋でランチを取り経済を回すというアイデアが印象に残りました。「価値」を探すためにはまず自分たちが地域のことを深く知らないといけないので効果的だと思います。ただ、訪れた人たちが一度きりではなく、リピーターにならないと経済の安定には程遠いでしょう。安定を実現させるためには、季節によって料理の種類を変えたりするなど飽きさせない工夫が必要になると思います。また、価値を探すだけでなく、価値を作り出すことも重要だと思います。Instagram で投稿するだけでなく、人気店がどのような工夫をしているのかを拝借して参考にすることはとても効果的だと思いました。

この講義を視聴して、藤山先生のお考え方を知り、私たち若者に向けて伝えてくださったメッセージに勇気をもらいました。今のようなコロナウイルスの状況もポジティブに捉え、その前向きな姿勢を見習いたいと思いました。

大学の入学や就職を機に東京や大阪などの大都市へ行ってしまう人が多いということは、地域の衰退に影響を及ぼし、社会問題として注目されています。そういう状況を改善し、地域の活性化を行っている藤山先生のお会社は確実に実績を出しており、その熱意のある活動を感じました。特に、国や世代を問わず人気のある、スターバックスの店舗に、有田焼を使用したアートタイルが設置されていることを知ったとき、地域の特徴・魅力が出ていて、雰囲気が素敵だなと思いました。また、Steamship CULTURE にも魅了されました。中でも、18 時ダッシュは残業をしないという理想的な仕事のやり方であり、家族が 1 番・仕事は 2 番という考えは、当たり前のことだけれども、仕事に追われそれを実際に実行できている人は少ないと思います。このように仕事と家庭、オンオフにメリハリを付けた理念を掲げている会社で私も働けると嬉しいです。

「長崎は日本の西端だからこそ魅力がある。」、この言葉を聞いたときは藤山雷太氏の言葉を理解できなかった。しかし、彼ののちの発言で私自身が見落としていた点に気が付いた。

それは地域には大都市が持ちえない価値、すなわち雷太氏の言葉を借りるならば「稀少性」があるのだ。それはまだ見つけられていないだけで、大きな価値があるとのこ

とだった。

現在では東京一極化が進行し、地域は廃れる一方である。なぜなら地域には仕事がなく、若者には東京の方が魅力的に映ってしまうからだ。だが、藤山雷太氏の活動のような「地域に密着した事業」が展開されれば、地域の若者が地域のすばらしさに気づきそしてその事業により地域の経済が活性化して、その地域に雇用を生み出すだけでなく東京に向かおうとする若者たちを引き留める要素になるのではないだろうか。また、それが実現されれば東京一極集中を解消でき、この地域学の目標を達成できるのではないかと考えた。

今回の講義を受けて、長崎の持つポテンシャルについて考えさせられたと共に、価値創造の重要性についても知る事が出来た。スターバックスの店舗に有田焼のアートタイルを作った取り組みを知り、地域産業が景観の良い店づくりに貢献している事が分かった。「Steamship」については地域から変えていくという姿勢を取り、何よりも人材を残す事を重要視している事を知り、これから地域に必要なのは人材を残していけるような職場づくりである事が分かった。仕事の効率を上げるために残業をせず、8時間集中するという考えを知り、社員のストレス軽減にもつながる素晴らしい考えだと思った。地域密着型事業の内容について、寄付金額が右肩上がりであるのは受ける仕事を限定し、一つ一つのサービスの質を向上させているからだと思った。長崎県発の「デリーシス」というデリバリーサービスがある事を知り、ぜひ利用したいと思った。将来の自分のために、チャンスを掴む事や人との縁を大切にする事などをこれからの大学生活で意識していきたいと思った。

この動画全体を通して学べたことのうち、最も大事だと感じたのは、”自分で決定する”ということだ。講師の方が最後にもおっしゃっていたが、大人の発言に従うのではなく、自分で考えてやりたいようにしなければ、いわゆる”無視される大人”になってしまうだろう。自分は困ったとき、周りの意見に合わせがちなので、（全て無視するというのは言い過ぎかもしれないが）なるべく自分の意見を前に出して行動していきたい。また、自分も東京に行けば何かあるような気がしていたが、この講義を通して、長崎などの地域にもそれぞれの魅力があり、何かを始めるのに東京に必ず行く必要はないと感じた。さらに、大学生活は思っているより早く終わりそうなので、講義中に述べられていたように、全力で楽しむ必要があると思う。またその中で、幾度か

今回の講義を受けて長崎でしかすることができないこと、長崎をはじめとした地方の魅力を見つめなおすことができたと思います。確かに地方でしかできないことは価値がその分上がるし、自分が実行する中でとても有意義なものになるのではないかと思います。講師の方のように自分にしかできないこと、長崎でしかできないことに価値を見出しどんな魅力があるのかを探したいと思いました。それを踏まえたうえで就職先や将来の夢を決めようと思いました。

また大人になるという内容の中で「価値がないと無視されるよ」という言葉は心に残りました。残りの大学生活を行っていくときに自分はどのような分野で社会に貢献で

きるのか、求められているのかをよく考え、求められている力を着実につけていきたいと思いました。

最後に仕事を楽しむということは大切なことだと感じました。人との関り、仲間との関りを大切にして質の良い仕事をしたいです。

私は地域の宝探しに取り組む若手起業家の藤山さんの動画を見ました。オフィスの写真がみんな笑顔で生き生きとしていてとても良い仕事場だと思いました。Steamship CULTURE というのが8つありどれも大切なことだらけでした。1日を三分割(仕事・睡眠・自由)に分けしっかりメリハリをつけようとしたり、家族が1番大事などがあり、そういったことを心がけているなんてすばらしい会社だなと思いました。地域でもできることではなく、地域だからできることはとても良い言葉だと思いました。受け持ったすべての自治体で寄付金額が右肩上がりになっていました。しっかり地域に寄り添って仕事をしているからだと思います。コロナを乗り越えるため宅配料無料でのデリバリーはとても素晴らしい取り組みだと思いました。また、目の前のチャンスをしっかりつかんでいこうと思いました。4年間はあっという間なので人との縁を大切にして充実した生活を送ってみたいです。

私は、3番の藤山さんの講義を聞きました。私は長崎出身なので、地元長崎のことと合わせて考えながら講義を受けることができたと思います。まず、steamship の仕事のスタイルは今後広まっていく新しいスタイルでとても興味を持ちました。堅苦しさなどがなく、社員の家族や自由時間も大切にするのはこれからいろんな会社で取り入

れられるとより楽しく働ける人が増えると思います。特に今は感染症の影響で今まで通りの生活ができなくなっています。しかし今だからこそできることも出てくるのでさらに新しい仕事スタイルが生まれるのではないかと思います。藤山さんの言う通り、長崎は人口の流失は激しいです。しかし私たちが長崎で行える事業を見つけることができたら人は戻ってくるということに共感しました。これからの大学生活はあっという間だとは思いますが、時間を有効に使い、地元の活性化につながるものを探して貢献できる人になりたいです。

この講師の講義は、「大人の言うことを聞くな」など少し過激な言葉が出てきてとても新鮮な気持ちで受けられた。中でも特に印象的だった言葉は「大人というものは、価値がないと無視される。」という言葉である。自分がこの先価値のある人間になれるのか少し不安になってしまった。この言葉を、頭の片隅において大学生活を送ろうと思った。また、「自分がいきいきできる場所にいることが大切。」と聞いたとき、自分の所属学部である水産学が盛んで、かつ趣味である釣りも充実させることができるこの長崎県こそが自分にとっての「いきいきできる場所」であると感じた。「自分だからこそできること」は現在は正直ないような気がする。長崎大学水産学部での大学生活だけでなく、この長崎県での生活、地元である香川県での生活など、自分を取り巻くすべての環境で見つけていけたらいいなあと感じた。大人に影響されることなく、自分のオリジナリティあふれる思考をもって今後生きていこうと思う。

私は今回、(3)地域の宝探しに取り組む若者の講義を選択した。この講義の中で一番心

に残ったことは、藤山さんが最後におっしゃっていた「大人の言うことは聞かなくてよい」という言葉であった。普通だったり一般的には、「子どもは大人の言うことを聞きなさい」などといったようなことが多々言われている中での今回の藤山さんの言葉であったので、驚いたしとても心に残った。しかしながら実際、確かに自分で決めたことには自分に責任が生じるし、そうなるによりその活動に積極的・真摯に向かえるなど感じた。それに加えて、自分自身で決めたことをしていく方が人生も楽しいなと深く納得した。私は今までは、言われることをやった方が楽だと思っていたし、あまり自分の選択というようなものを重要視はしていなかったけれど、これからは自分の人生であるし、自分だからこそその選択を大事にしていこうと思う。

また、藤山さんの活動自体もすごいと感じた。今までで携わってきた地域の自治体すべてで寄付金が右肩上がりなのはすごいし、その上昇も大きいもので 13 億以上もアップしていることにはとても驚愕した。

大人になるということは「価値がないと、無視されること」という言葉にとっても心を打たれました。確かに価値がないと相手にもされずに人生を終わるのかなと感じました。自分にとっての価値は希少性もあると思うが一つでもいいから何かしらの強みを持つこともあると思いました。地域「でも」ではなく「だから」を探すことはとても難しいと思うがそれこそが地域活性に役立つと感じました。藤山さんのような人の下で働くことができれば確実に楽しいだろうし自分たちが持っている力を 100%引き出すことができるのではないかと感じました。自分も将来、藤山さんのような人の下で働いたりこのような上司になりたいと感じました。仕事は、楽しくないとかきつくて

苦しいだけなどいろいろな悪い意見しか聞いてこなかったがこの講義を通して仕事は楽しむものであり、楽しまないと損すると感じるのでそのような仕事に就くためにこの大学生活を本当に有意義なものにしたいと感じました。

1 年でおおよそ 15 万人が地方から東京へ流出し地方が衰退していきっており、長崎も同様に人口が多く流出しているようだ。この傾向は地方を崩壊させ、そこから恩恵を受けていた東京までもを崩壊させてしまうことを以前の講義で学んだ。これを引き止めるにはいきいきと働ける場が重要である。これがあれば、東京から地域に帰ってきたいと思っている人はたくさんいるから、若い人が帰ってくると考えられる。藤山雷太さんは長崎大学を 1 番西の大学と言ひ、希少性を出すなどしていたので、リスペクトを感じ嬉しく思った。地方活性化に対する熱意なども感じ、とてもメッセージが伝わってきた。飽きない話で 1 時間があったという間に感じたし、少しの休憩などの余談もためになった。また、地域の伝統工芸を活かすなど地域でもできることではなく、地域だからこそできることがたくさんあるということが分かった。次は、私だからこそできることというのも考えて実行していきたいと思った。

お話を聞いていて、自分自身についてのことや地域に関することについて真剣に考えていらっしゃるのが伝わり、このような姿勢を見習いたいと感じました。このように感じた理由は、私がまだ自分の将来に関することなどはあまり考えようとしていなかったからです。今回のお話を聞いて、これからは、きちんと自分自身と向き合って、

自分に関することについて真面目に考えていきたいと思いました。また、地域の宝探しに興味が湧きました。漠然とですが、将来は地域の魅力を発信できるようなことを何かしてみたいなと思い始めました。そして、Steamship の CULTURE が非常に良いなと感じました。今回紹介していただいた CULTURE の中の「1 日を三分割」というものは、私も自分の生活に取り入れたいものだと思いました。新型コロナウイルスの影響で家にいることが多くなり、生活リズムが乱れがちになってしまっていたので、「1 日を三分割」してメリハリのある生活を送りたいと感じました。

スターバックスの壁に有田焼を使ってイラストが描かれている。このような全国展開している店舗で行っている取り組みは、地域だからこそできることである。

スチームシップは地域密着型の会社で、地域から未来を変えていく、地域が選ばれる社会のように、地域から盛り上げることを目標としている。地域の宝探しカンパニーとして、地域の良さを見つけたり、ふるさと納税の支援事業、地域活性化支援事業などを行っている。地域には良いところがたくさんある。それらを自分のアイデアを使い、多くの人に伝えていくことが大切である。多くの方は進学や就職によって都会に行くため、地域は衰退しがちであるが、いろいろな方法で活性化させることができる。

私たちが大学生活の中でやるべきことは、自分の価値を高めること、長崎の魅力を知ること、チャンスを逃さずつかむことである。自分のやりたいことには積極的にチャレンジし、自分自身の価値を高めて、大人になった際に地域の魅力を伝えられるようになりたいと感じた。

「大人になるってどういうことだと思う？」という問いに対する答えの「価値がないと、無視されるよ」に感銘を受けた。大人は他の人から助けてもらえるわけではない、無視されないためにも自分から価値や魅力を自ら発信していかないといけないと思った。地域「だから」できることはたくさんあると私も思う。Steamship の culture はどれも働くうえで理想的で、地域に根差していると思った。この会社は「地域の宝探し」として、会社が一丸となって地域のために、地域から未来を変えるという共通の目標に向かって活動されていて、このような会社が増えていけば地域から日本が発展していくのではないかと思う。大学生活に関して、目の前のチャンスを掴む、人との縁を大切に、自分だからできること、など今までも何度も言われてきたことだが改めて頑張ろうと思った。大人の言うことは無視しろ、自己責任という言葉信じてこれから自分のやりたいことをやりぬこうと思う。

起業に興味があり藤山さんの動画を見させていただきました。地域の良さを利用して街を盛り上げようとする気持ちはとても尊敬できて自分も学びたいことがたくさんあると思い楽しく話を聞けることができました。自分が思う大人になるということは自分でやることを決められる人だと思っていました。価値がないと無視をされると言葉はとても心に残りました。価値がないと無視されるということは自分もすごく理解できます。部活をやっていた時も使える人でなければ試合に使わないということと似ているなと思いました。技術を身につけて相手に対して価値与えられる人間になるためにはこの大学生活がかかっているなと思いました。自分がやれることを本気でや

ることは自分もできると思い、この先も自分ができることを増やせる大学生活を送っていかうと思いました。その中でも地域で何かやる方が価値があるということは自分も考えていました。横浜から長崎に来た自分にとっては長崎はとても良い場所でもっと他県に向けてアピールできるのではないかととても思っていたことです。長崎でできることをもっと見つけていかうと思いました。

地域の宝探しに取り組む若者たちというタイトルに惹かれてこの講義を受けた。講師の先生のお話を聞いて、長崎の魅力的なものを見つけ発信する活動をしていることを知り、タイトルの意味がよく分かった。近年、都市化が進んでいることもあり私はあまり地方に魅力を感じていなかった。しかし、壁が有田焼のタイルでつくられているスターバックスなど地域だからこそできることがたくさんあるのだと知ることが出来た。一度上京した後、九州に戻ってきた講師の先生は「長崎はポテンシャルがあるから東京に行かなくてもよかったと思う」と仰っていたが、一度離れるからこそ見えてくる地元の良さがあるのだと私は思った。

また、講義の後半にあったように「目の前にあるチャンスをつかめ」、「人との縁を大切に」、「自分にできることは何か考えろ」を胸に刻んで、充実し将来につながる大学生活を送っていきたく強く思った。

今回の講義を通して、地域事業の可能性と面白さを知ることが出来た。

今回、藤山雷太さんのお話を聞いて、地域に密着することがいかに大事であることを学ぶことが出来た。というのも、何かの事業を始めるとき、東京などの発達しているよ

うなところに進出してもあまり意味を成さない。地方地域の人口流出などで苦しんでいる地域の方が、より高いポテンシャルを秘めていることを知った。確かに、今まで発見されていなかった地域の魅力を発信することで、地域活性化に大きく貢献出来ると思った。そこに目をつけた藤山さんは、非常に先見の明があると思った。また、バリ島に研修に行き、海外からクリエイティビティーを学んでいることから、グローバルな視点からも物事を考えていることが素晴らしいと感じた。さらに、私が驚いたことは、地域密着型の事業として、藤山さんの会社では、ふるさと納税の支援事業をしており、対象の七つの地域のうち、すべて寄付金が右型上がりであることだ。地域の宣伝としてInstagramを利用して、視覚的に魅力を伝えていくスタイルが現代にフィットした型であると考えた。

「大人になるってどういうことだと思う？」この問いに対する僕の答えは、自立することや責任感を持つこと、といったものでした。しかし、「価値がないと無視される」、道ですれ違った大人に声を掛けますか？という答えには納得することができましたし、それと同時に驚きもありました。

地域だからできること、自分だからできること、みんながいきいきと働くことができる仕事場であるスチームシップは、講義を聞いていて本当に楽しそうな仕事現場だなと感じました。また、藤山さんに見せていただいた写真に写る方全員の表情がいきいきとしており、とても楽しく仕事をされていることが見ているだけで伝わってきました。東京一極集中が現在進行形で進んでいる今、地域においての若者の力はもの凄い威力を発揮すると感じており、そのためには藤山さんの会社であるス

チームシップのような会社が必要不可欠であると思いました。ニュースなどを見ると、就職はしたが自分自身が思い描いていた事と違う、こんなことがやりたいわけではなかった、というギャップにより会社を辞めてしまう若者が増えていることが取り上げられていました。「自分のやりたいことをやる」、周りの大人達からすれば、そんなうまくいかない、少しわがままだ、という言葉に浴びせられそうですが、自分の立場で考えてみても、やはり将来やりたい仕事は自分のやりたいことですし、そのために今長崎大学水産学部にいるという考えにたどり着きます。

スチームシップについての説明の中で印象に残っている言葉が2つあります。1つ目は「家族が1番、仕事は2番」、2つ目は「財を遺すは下、事業を遺すは中、人を遺すは上なり」です。特に1つ目の「家族が1番、仕事は2番」は感慨深い言葉でした。僕は両親がどちらも教師であるため、小さい頃から1人でいることや遊ぶことが多かったです。なので、小さい頃から遊び相手がいる弟には少しやきもちを妬くことがありました。1人で何かをすることが多かったことから、北海道から遠く離れた長崎での1人暮らしも大丈夫だろうと思っていましたが、1人暮らしを始めて改めて家族の大切さを知りました。知らないうちに家族の誰かが家族の誰かを必要としており、お互いに支え合っていること、このことを一番深く感じました。そのため、家族を優先できるスチームシップの仕事現場は、これからの仕事形態の理想の形であると思いました。

今の社会には様々な分岐点があると感じています。自分のやりたいことやっていくために目の前にあるチャンスは絶対に逃したくはないですし、掴んだチャンスを最大限に活かすためにも最高の準備を整えたいと思いました。意思決定によって変

化してしまうからこそ、自分のやりたいこと・信念を貫き通します。

今回の藤山雷太さんの講義を聞いて、様々な気づきを得ることが出来ました。「価値がないと無視されるよ」というフレーズは浮上に自分にとって印象的で深く考えさせられました。自分は何となくのノリで大学に入ってしまった人間の一人で、前期のほとんどを目標なしで過ごしてしまい、スキルや資格を得ることが出来ませんでした。このような学校生活が四年間続いてしまうと仮定すると、自分は価値のない人間のままで社会へと放り投げられることとなるので、今の日々の在り方を変えなくてはならないと強く思いました。また、steam ship の会社の在り方が非常に素敵で、将来は企業を考えている自分にとって良いアイデアの例となったと思います。特に「クリエイティブに親しむ」「18時ダッシュ」「家族が1番、仕事は2番」などの理念は非常に面白く大切だと思いました。自分が起業する際もこれらの理念を使ってみたいです。

これまでに多くの地域学に触れてきましたが、どの回も非常に魅力的で長崎に根付く素晴らしさを感じ取ることが出来ました。ありがとうございました。

まさか、「大人の言うことは聞くな」と言ってくるとは思いませんでした。確かに大人は安全志向で新しいことに挑戦するには少し邪魔な存在になってしまうこともあると思います。しかし、大人の力を借りて協力してもらった方がもっとより良いものができるのではないかというのが私の考えです。おそらく、雷太さんは自分の

言葉にインパクトが欲しくてそうおっしゃったのでしょう。正直あまり心に響いてこないアドバイスでした。そして、「長崎はポテンシャルが高い都市なんだ。」と何度も何度もおっしゃるので、どんなポテンシャルがあるのだろうとずっと期待して聞いていたのですが、終始、ポテンシャルがある、長崎大学の1年生には未来がある。西の端で希少性があるなどといった、具体性のないふんわりしたことをお話しなさって正直がっかりです。私だって長崎は素晴らしい町だと思ってますが、なにかが惜しいと何か魅力に欠けるといつも感じてしまいます。その何かを常に見探していて、今回の授業にも期待をしたのですがあまり得られるものではありませんでした。

ひねくれた感想になってしまい、大変申し訳ないですが、思ってもないことを書くより、率直な意見を書きたいと思い書かせていただきました。講義ありがとうございました。

今の社会の流れで、良い大学に入る→いい会社に入る　そのために都会に出ていくという流れが少なからず存在すると思います。

しかし、このような流入がなされていく中で、地方は衰退していき、都会のみが発展していくことだけが、国の発展につながるというわけではなく、地方があってこそその都会だと思うので、地方創生はとても重要なことだと思ったのと、リターンしこのような会社を築き上げたことにとても感心しました。

地域創生を進めていく中で、市民間でのコミュニティーはもちろんのこと、そこに支援できる人は行政や企業だと思うので自分もいつかは生まれた地域の特色を生かし、何かしらの形で返せるような人物になりたいと思いました。

こんな風に地域「でも」できるのではなく、地域「だから」できることがあるのではないか？ということについて自分も考えさせられる楽しい講義でした。ありがとうございました。

この講義を聞いてまずはじめに心に残った言葉は『こんな風に地域「でも」できるでなく、地域「だから」できることがあるのではないか』です。本当にその通りだなと思いました。僕の出身は大阪府の松原市というところですが、大阪市内以外はほとんど長崎市内の中心街より田舎で、あまり目立ったようなことをしていませんが、その町、地域だけの特有の製造業や、農作物を売り出したりしています。また、ふるさと納税は金を集めるだけでなく、地域を活性化させる一つの取り組みなんだと感じました。僕の中でのインターシップは真面目で将来をきちんと見据えて、夢を持っている人が行くべき所と思っていましたが、藤山さんはインターシップにはなんとなく行ったと聞き、気軽に参加してもいいんだなと思いました。機会があれば参加したいと思いました。僕も地元を活性化させるためになにか取り組んでみたいと思いました。

今回の講義を受け、若いうちに、学生のうちにやりたいこと、挑戦したいことに

対して貪欲に行動していきたいと思った。今回お話ししていただいた「地域の宝探しカンパニー 株式会社スチームシップ (Steamship)」の概要に関して、ミッション「地域から、未来を変えていく」、ビジョン「地域が積極的に選べる社会をつくる」、コアマインド「財を遺すは下、事業を遺すは中、人を遺すは上」という目標を掲げていると学んだ。そして、『ヒトとの縁を大切に』という言葉が特に印象に残っている。講師の先生のように、若い世代が都市へ進出するだけではなく、自分自身の地元で豊かに暮らすことのできるヒントを見つけ出す事業はとても現代的だなと思った。また、このコロナ禍にある現状にマッチした取り組みだと感じた。今後の日本にとってこの考え方はとても重要になってくると考える。そして、私が今回の講義において最も影響を受けた言葉は「大学生活はあっという間に終わる」である。先生は、あっという間に終わり、その間にいくつかの限られたチャンスも巡ってくる、しかし意外に忙しい学生生活の中でそのチャンスを有効利用することのできる人は多くない、とおっしゃった。そのため、私はこの学生生活をより有効に過ごすことのできるように意識していきたいと思った。また、先生は、他人の言うことはすべて無視しろ！親の言うこと、大人の言うことも無視しろ！！とおっしゃった。これは、自分の判断、行動の一つ一つが、自分自身に責任があるということを意味する。私はこの言葉を聞き驚いた。学生は、しっかりと自分の判断、行動に自分自身が責任を持たなければならないのだ。私には将来の夢がある。しかしその保険として教員免許状を取得するかどうかが、今とても迷っている。今までは親や先生の言うことを聞いて判断してきたが、今回はそうはいかなそうだ。つい最近まで、教職を取ることが大学に通う最

低条件だったのに(←親との約束事)、この前「好きなようにしたんでいいんよ」という風に言われ、自由になってしまったからだ。私は、自分に決定権が移ってしまい、本来ならうれしいはずなのにととても困惑している。今後の自分の人生のことも、未来のために今どうするかあまり深く考えていなかったからだ。だから、これからの夏休みの期間中に、じっくりと自分と向き合い、自分にとって最も素敵な道を選べるように成長したいと思う。

近年、「地方創成」という言葉などが重要視されている。その先駆けとなる steamship の活動はとても面白いものだと感じた。実際、環境科学部でも、ローカルから世界へ、というような動きがあることについても学んだ。都会とは違って「地方だからこそできること」に着眼し、その土地を活性化させるという動きに興味があったので、今回の講義を聴くことができ、とてもうれしく感じた。

今回の講義で印象に残った steamship の” Core mind ”にあたる、「財を遺すは下、事業を遺すは中、人を遺すは上なり。」という言葉には感銘を受けた。「人材を遺す」という言葉はシンプルかつ難しいが、これからの日本に必要な考えだと感じた。さらに、「地域の良いところや魅力を探す」意味として「宝探し」という表現を使っているところに面白みを感じた。単に「魅力を PR する」というより、「宝探しをする」という方が、多くの人々をワクワクさせ、注目を集めやすくなるのを実感した。

ほかにも、事業を拡大しすぎず、限定した地域の活性化に努めるというような、現代の傾向とは少し違う考え方が斬新だと感じた。近年の企業は事業拡大を焦り、事業が広く薄くいきわたっているイメージだったが、steamship では、あえて狭く深くい

きわたらせているところが、地元の人から頼られ、成功できる秘密なのだと感じた。

今回の講義では参考になることが多く私自身の考え方が変わった。視野が狭いということを実感させられた。

常に新たな視点や学びを得ようとする探求心が成功する秘訣であると思った。地域密着型事業は地域のことを念頭に置いた企画作りはもちろん、事業を行うにあたっての様々な工夫が凝らしてあって学ぶ点が多かった。自分の考えをしっかりと持ち、何事にも挑戦する姿勢がとても大切なことであると分かった。これこそが成功する一番の原点であると思う。

目の前のチャンスをつかんでいくことが大切であるということが心に響いた。今振り返ってみると、そのような機会を自ら遮断しているように思った。コロナ禍でなかなか外出ができない中で、例年に比べてチャンスの機会が減ってきていると思う。しかし、視点を変えてみると、自己を見つめ直し自分のスキルを磨いていける良い期間であると思う。今しかできないことがたくさんあると思うので、今のうちに自分のやりたいことを精一杯取り組んでいきたい。また、自分のやりたいことをやるというメッセージを参考にしながら、充実した日々の大学生活を送っていきたい。

私は「大人になったら、価値がないと無視される」という言葉に衝撃を受けました。藤山さん曰く、「価値とは希少性」ということでした。多くの人が東京などの大都市に流れていく今の時代だからこそその地域独自の価値を見いだして活かしていく、これはとても大変なことだと思います。しかし価値がなければ無視される大人の世界では

このような端から見れば無謀なチャレンジでもそこで新しい発見いわば価値の発見ができたなら豊かな人生を送ることができるのだろうと思いました。自分も今年の夏に今はあまりメジャーではない「ビオトープ管理士」の資格を取るための勉強をしようと思っていますが、「メジャーではない＝希少性が高い」と考え、自分に新しい価値を付与して社会に出たときに無視されないくらいの人間になりたいと思いました。

「価値がないと、無視されるよ」という言葉はとてもおもしろかった。今までの自分の中にそういった考えがなく、新たな考えを示してもらえてうれしい。スタバのタイルを作ったときに職人さんとの間でどのように交渉したのか気になった。地方「でも」できるのではなく、地域「だから」できるという考えがとても好きだった。そういうところに価値を見出せるのは面白い。Steamship CULTUREの18時ダッシュはすごくいい会社だと思った。また、そこでの話で8時間の仕事が好きでてすぐすぎちゃうという話もすごくよかった。食堂やカフェを作らず地域の食堂やカフェを会社のように思っているというのは地域に根ざしていて、理念と一貫性があって良いと感じた。地域密着でたくさんの地域の宝探しをしないというのはいい考えだと思った反面、いろんな地域のいいところを知れないかも知れないと思うと悲しい。非常に話が面白かった。

私がこの講義を見て一番強く思ったことは将来こんな企業に就職したいということでした。その理由として Steamship は地域の活性化を目指している中でその一つの目標に対して働いている人が一つになり無理して頑張っているのではなく、夢中になって

やっているように見えたことなどがあります。もちろんほかにも、仕事場の雰囲気がいいことや雇用主と労働者との距離が短いことなどがあります。しかし私は必死に努力して物事をしている人よりも、夢中になって物事をしている人の方が物事の結果は残すと考えています。ですから私はそのことに気づいてから将来は自分が夢中になれるような仕事につくことを決めていたので、夢中になって仕事をしている Steamship のクルーの皆さんがとても印象的でした。

そしてこの講義では将来社会人になっても覚えておくべきだと思ったことが二つありました。一つ目は、社会に出て価値のない人材は無視されるということです。二つ目は、自分だからこそできることは何かということを常に考えるということです。この講義で学んだこの二つのことは将来私が社会に出た時しっかりと心の中に持っておこうと思いました。

東京に就職のために上京する人が多い中、地元を目を向けて地元の強みを生かして仕事をするのも、確かにこれからの時代有効な手だなと思いました。地方にはやはり東京などの大都市が持ちえない強みをたくさん持っていると思います。また、この講義をして下さった藤山先生の立ち上げた、steamship というような会社が今後増えていき、強みを出していくのかなと思いました。steamship のような会社というのも、フォーマルな格好や形式にこだわらず、従業員全員がフランクな関係で仕事しやすく、仕事は仕事、家庭は家庭で時間をとってあげるといったような会社です。そんな会社が上手くいくわけないという批判する人たちも必ずいると思います。ですがそのような考えもすでに古いのかなと思います。考えてみれ

ば apple や LINE などの世界的な会社はスーツできめた大人たちが残業してまで会社に貢献しているというイメージはありません。また、藤山さんの会社ではインスタグラムなどのほぼ若者がユーザーであるコンテンツも活用していました。老若男女どの世代にも情報を発信していくことも大事なんだなと思いました。

今回講義をしてくださった方の「スチームシップ」という企業の方針や風景に興味を持った。まず、個人的な職場のイメージとしては、しっかり制服を着て、もくもくと作業を行っている場面を想像していたが、この企業は自由で社員との距離も近かった。働きやすい職場環境だと思った。また、大人になるということは、価値がないと無視されてしまう。今では、多くの若者が都市に行き、地域が衰退している状況にある。そこで、地域で何かに取り組むことは価値があると考える。講義者は出身が佐賀だったことから、有田焼について取り組んでいた。イキイキとした働き場所や環境を作りあげることが、社員のやる気や生産性の向上につながると思う。私自身堅い環境で仕事に取り組むよりも、この方の企業のように、社員の距離が近く、環境も生き生きしたものであるほうが、苦なく続けることができると思う。まだ、具体的な進路は定まっていないが、自分にあった環境の職場を見つけて、就きたいと思う。

最近では東京など、交通や店の種類が豊富な都会に憧れて地域から離れる若者が増えている印象がありますが、地域だからこそできることを活かした仕事はとても素敵だと思いました。確かに地域には伝統的で現代でも継承されるべきものが多くあるのに、

用途やアピールが足りないからこそ見られていないだけで、活かされる機会は十分あると感じました。価値があって大人であると言われていますが、資源は十分にあるからそれを如何に活かすことができるかというところで、そのことが表されるのだと思いました。またそのために地域のことを知るためには、インターネットでは知ることができない情報である、地域住民の方から話を聞くことが一番良いと思っているので、そこから人との縁が重要であると感じます。将来は自分が大人となり、そのような考えを持って地域の助けとなる仕事を行えるようになれば、よりその考えも広まってくと今回思いました。

藤山雷太先生の話を聞いて、自分の価値を創造していくためにこれからすべきことを考えることができました。地域に根差した活動には、経済の中心地である東京ではできないことをするというところに意味があることがわかりました。有田焼などを例にとって、地域にあるもので事業を行うおもしろさも理解することができました。仕事に高いパフォーマンスを発揮するためにはしっかりと仕事・自由・睡眠の時間にメリハリをつけること、様々なクリエイティブな思考を取り入れることなど多角的な取り組みが必要だと分かりました。大学生である時間は有限であること、人との縁を大切にすること、何かをするチャンスが訪れたときにそれをしっかりとものにしていくことなど今回の講義を通して学ぶことができたことを念頭に置いてこれからの大学生活を送っていきたいと思いました。自分が何かしたいことを見つけた時に周りの意見に萎縮しすぎることなく、積極的に様々な経験をしていきたいと思います。

「地域でもできるじゃない、地域だからできる」ことに着目するというのは、希少性、価値を高めるという点において、これ以上ない方針だ。また、価値を作るうえで、どう広げていくかも肝となるだろう。どれだけ良いものであっても、誰の目にも触れないようであればその価値は測れない。

社会で残るものというのは得てして需要があるものになる。どんな人が必要としており、どんな時に必要とされるのかを考えなくてはならない。今回の様に焼き物を用い、店のデザインを作ったというのは非常に大きな恩恵をもたらすと考える。「私たちの地域では焼き物を使ってこんなことも出来ますよ」という実績を基にした宣伝が出来るのである。そこから、魅力、強みというものを発信することも可能だろう。もちろん、工夫や向上を怠ってはならない。

一度繋がった縁^{えん}というのは目に見えなくても確かにそこにあり、ふいに私たちにその存在を教えてくれる。自分の居る環境を利用してやろう、という気持ちが大事であると思った。

はじめに、大人になるってどういうことだと思う？という問いの答えとして、価値がないと、無視されるということだという答えが返ってきたということに大変驚いた。私からすると、お話をしてくださった方は、学歴を見ただけで充分価値があるのではと思ったのだが、その話を聞いて自分には価値がないのではないかと思ひ、行動に起こしたということも驚いた。また、価値の創出の方法は、人それぞれ

であると思うが、そこで企業を選んだということに行動力を感じた。私も自分の価値を生み出すために、沢山のことを考え、何か行動していこうと思った。

次に、仕事の目標など、様々なことを聞き、とても魅力的な会社であると思った。私は、SNSなどで、多くの人が仕事に対する鬱憤を連ねているものはよく見るが、楽しいという書き込みはほとんど見たことも聞いたこともなかった。そのため、ずっと大学生のままでいたいと思っていた。私は、給料は欲しいが、仕事をするだけで一日が終わるような人生は嫌であると思っており、私自身の将来のビジョンが浮かんでいなかった。今回お話を伺って、仕事以外も大切にできる職があるのだと、視野が広がったことを感じた。将来はこのような会社で働きたいと心から思った。

3つめに、「大人のいうことは全部無視してください」という言葉に、大変衝撃を受けた。私は今まで、やってみたいと思ったけれど、周りが否定したためやる気をなくしたということが沢山あった。これからは、自分の責任で、やりたいことをたくさんやっていこうと思った。

とても面白い講義をしてくださり、誠にありがとうございました。

「大人は価値がないと無視される」という言葉を聞いて、今の自分には価値というものを見つけることができなかったので、大学生活4年間で成長できるようにやりたいことを積極的にはじめていきたいと思った。

価値とは希少性にもあり、希少性は地域にあるということを学んだ。

Steamship には月に 1、2 回ランチミーティングがあってコミュニケーションを図ることができ、会社に食堂をつくらず、地域でランチをすることによって地域の経済が回ようにしている。地域密着型ふるさと納税支援事業、地域活性化支援事業、クリエイティブ&コーディネート事業をおこなっている。地域密着型ふるさと納税支援事業では、7 つのすべての自治体で寄付金額が右肩上がりで、責任をもって事業に取り組んでいることがうかがえた。他自治体との差別化を図るためにデザイン・ブランディングを強化することが必要であることを知った。

これからの企業は steamship のようなものが増えていくのだと確信しました。

藤山さんの話を聞いて、「自分のやりたいことをやりまくれ」という言葉が本当に刺さりました。目の前にあるチャンスを逃さずにつかむことを忘れずに大学生活を送っていこうと思った。

私が第八回の長崎地域学で選んだ講義動画は”地域の宝探しに取り組む若者たち”です。私は正直に言うと、あまり長崎よりも東京や大阪といった都会に行きたかった人間です。最初、今まであり便利だったものが長崎にはあまりなく、不便に感じていました。しかし、長崎に住んで数か月がたった今私は長崎に来てよかったと思っています。長崎は、歴史が長く、それが街に表れているので観光もよく、また住みやすい街だと個人的に思っています。特に水産学部にはとてもうれしいである魚がよく取れてとてもおいしい。これは長崎が全国に誇れることだと思います。私はこれから長崎に住んでいく中で、もっと長崎のいいところを知

り、長崎に人がたくさん来てくれるような都市にしたいです。そのためにもコロナが収まったら、長崎市以外の市街地について自ら長崎の良さを肌で感じたいと思いました。

今回藤山さんの話を聞いて、枠組みにとらわれない考え方をする事の大切さを知ることができました。藤山さんは高校時代に一度は東京に出るべきだという固定観念があったことから、一度は東京に出たと話していましたが、同じようなことは僕も感じたことが多くあります。「上京」というのはやはり大きなことを成し遂げるために必要不可欠なものであるような気がするからです。しかし、藤山さんはその後地元に戻り、そこで起こした企業で成功を収めたといっていました。その中で藤山さんは、地方にこそお宝がたくさん眠っているのだという話を何度もされていたように感じました。確かに僕たち住民は、地方で暮らしているとき、新たな開発がなければこの土地に魅力はないと決めつけてしまっていたような気がします。そうではなく、この土地のこういった点がアピールポイントに成りうるのかということや、それをどのように生かしていくのかを考えることができれば、地方にも無限の可能性が眠っているのだということが分かりました。最後に、藤山さんが「コロナはチャンス」といっていたように、物事のネガティブな面ばかりを見るのではなくポジティブな面に目を向けていくことが大切なのだと思います。

私は「価値がないと無視される」という言葉がとても胸に刺さりました。確かに私はまだ将来の夢が決まっていなくて、今の時代は AI も発達してきていて、何か特別

な能力やその人でなければならないことを行うことが求められます。なので、よく、自分には何ができるのだろう、自分ならではの価値って何だろうと考えることが多いです。けどまずは身近なところから自分の発想を様々なものと結び付けていくことが大事だなと改めて考えることができました。地域でできることではなく地域だからこそできることで、長崎の地域の活性化において地域の循環性が大事だと分かりました。使えないものでも自分で使えるものに作り替えることがクリエイティブであり活性化につながるんだと思いました。また、すべての物事を中途半端にせず最後まであきらめずにやり遂げることも大事で、今の自分には足りないことなので、まずは途中で投げ出さないことから始めていきたいと思いました。

この動画を見て、価値を地方の希少性に見立てるという視点が、自分には思いつかなくて、むしろ地方にはマイナスイメージしか抱いていなかったのもので、ものすごくためになりました。食堂はあえて作ってなくて、地域のカフェや飲食店がスチームシップの食堂であるというのが、地域の宝探しという点でもものすごくいいことだなと思いました。

大学の4年間はあっという間に終わるというのを聞いて、自分はしっかり「目の前のチャンスを掴む」というのを大切に大学生活を楽しんでいこうと思いました。

「自分でやりたいことは自分の思いでやり抜く、大人のアドバイス、人の言うことは無視しろ」というのを聞いて、私は自分でやりたいと思ったことは、必ず何か意味があると思いながら、積極的にチャレンジしていこうと思いました。

「全然違うはチャンス、コロナはチャンス」というのを聞いて、入学してからずっ

とオンライン授業で大学生になった実感もあまりないけれど、これからの生活の過ごし方をしっかり見つめなおし、前向きに生きていこうと思いました。

大人になるとはどういうことかという質問の答えとして、「価値がないと無視される」というのを聞いて、自分が価値を持つためには希少性があることに取り組んでいくことが大切なのだと感じた。会社のことを船と表して、社長がキャプテン、社員がクルーと呼ばれているところが面白いと思った。また、地域でもできることでなく、地域だからこそできることは講義の中の例を聞いてほかにもいろいろと考えられると思った。steamship のオフィスの写真を見て、あれくらい働いている人が生き生きとしているのならば、とても働きやすい環境で会社もどんどん良くなっていくと感じた。地域から都市へ人が流出していく中、地域から未来を変えていくという社内 mission だったり、事業を続けていくために「人を遣す」という core mind はとても素晴らしい考え方だと思う。残業はしないというやり方であったり、仕事より家族を大切にするという考え方であったりは社内の人間関係や仕事への意欲の向上にもつながる、とても重要なことだと思う。大学生だからできることを考えて、積極的に動いていきたいと思った。

今回藤山さんの講義を受けて長崎には沢山の可能性があることを学びました。

最初の自己紹介で藤山さんは今の会社の前にも様々な事業を行っていたことを知りました。

また、釣り好きということで水産学部にいる私としてはとても好印象でした。

最初に藤山さんが東京にいたときに言われた「大人になるってどういうことだと思う？」ということを私も考えてみたけれど解答が浮かびませんでした。その後、「価値がないと無視される」ということを聞き、社会は怖いなと思う一方で、自分の価値観について大学生のうちに探しておくことも重要なのかなと思いました。

藤山さんがそこで考えた「価値の希少性」から地域”でも“ではなく地域”だから“できることをやるということとはすごい発想で面白いなと思いました。そして、その取り組みの一つの地域密着型ふるさと納税支援事業では請け負った全ての自治体が右肩上がりという成果を挙げているということで、途中のミッションで言っていた「地域が未来を変えていく」を実行しているように見えて、凄いなと思いました。

藤山さんの講義を視聴して、タイトルからとても興味深い内容だなと感じました。地域でもできることではなく地域だからできることというコンセプトがとても素晴らしいと感じました。実際に地域密着型ふるさと納税支援事業においてすべての自治体で寄付金額が右肩上がりになっているという実績があることにすごいなと感じました。もらっている仕事を成果を出すためにしっかり丁寧にこなしているんだろうと想像ができました。大学生になって今の現状コロナウイルスでいろんな障害がある中ですが、それが見方を変えれば今までにないようなチャンスが生まれている可能性があるというのは本当に新鮮な考え方でした。長崎大学に入ったことで手に入れることができる特別な人脈というのもこれからできくと思いますが、その人脈や日々を過ごしていく中で発見できた自分にとっての

チャンスをしっかりモノにしてこれからの将来に役立てていければいいなと思いました。

ベンチャー企業は都会の方で IT 関連のことを行っているのが主流だと思うが、藤山さんが立ち上げたスチームシップは地方で地域おこしを行うという珍しいケースだと思った。この職に至るまでに、大人は価値を持っていないといけないということからその価値を希少性に見出し、このような発想に至ったところがすごいと思った。スチームシップの活動は都市の一極集中を改善し、地方創生を図るうえで非常に有効な手段だと思う。やはり若者をどのように地域に呼び戻す、または他の地域から取り入れるのが非常に重要だと思うので地域の魅力発信というのは情報化が進んでいる現代では利いてくるのではないかと思う。また、サラリーマンのように縛られておらずリラックスして仕事ができるそういった職場は若者に魅力的であり、そういった企業が地域に増えていけば若者の地方からの流出というのは防ぐことができると思う。

大人になりということは、自分で稼ぐことができても親に多くを頼ることなく生きていけることだと思っていたが、ほかの考え方があることがわかった。価値のある大人になるための準備段階として大学の 4 年間で過ごしていきたいと感じた。そのために、たくさんの経験を積んでおきたい。今はコロナで制限されているが、アルバイトや旅行など大学生にしかできないことをたくさん経験し、将来の進路に生かしていきたい。長崎大学に入学して、長崎で生活しているという特権を生か

し、地方の魅力や、その活かし方を学んでいきたい。私も出身は、東京や大阪といった都会ではなく九州の田舎なので、もしも将来そういった仕事をする事になったら、経験が生かせるようにしておきたい。スタバのように、工夫された店があることも分かったので、いろいろな店を観察して、そういった工夫がないか注目してみようと思った。

この講義の冒頭のほうに出てきた、大人は価値がないと無視されるという言葉が胸に響きました。大人とは何なのかということは自分でも何回か考えてきましたし、何人かとその考えを共有したことがありましたが、ここまでじっくりくる答えは初めてでした。だからこそ価値を見つける・広めることを活動としている藤山さんの考えを聞けるこの講義は自分のこれからを考えるうえで、とてつもなく大きな意味があると思えました。

地域で活動するとなるとなぜ首都圏ではなくわざわざ地域なのか？という問に対する答えがなければならない気がしますが、「地域でもできることではなく、地域からできることをやる」という藤山さんの考えはこの問に対する完璧な答えだと思います。首都圏でしかできないこともあれば、地域でしかできないこともあるはずです。長崎にしかできないことを在学中にたくさん見つけたいです。長崎は立地も歴史も特殊な街なので、その高いポテンシャルを存分に活かしてみたいです。

講義終盤のアドバイスにあった通り、自分のやりたいことをやり抜くということをして、様々なチャンスを活かせるようにしたいです。そして、長崎でしかでき

ないことを支えられる人間になって、長崎に貢献していきたいです。

私はこの講義を視聴して多くの刺激を受けました。

まずは、大人になるとはというテーマでお話しされていた時の言葉で「価値がないと無視される」が印象に残っています。自分は「責任をとれるのが大人かな」などと思っていたので特に印象に残りました。誰かにとって価値のある存在になることはとても大切なのだと分かりました。

また、地域からどんどん情報を発信していくことを理念として挙げられていて感心しました。自分は、将来のことを考えたとき一度東京に出て経験や情報を得ようと考えていました。しかし、この講義を視聴して東京に一度出てからでなくいきなり地域から自分のやりたいことをやって、地域の良さを発信して貢献していくのもありなのかなと感じました。

最後に藤山さんがおしゃっていた言葉で「大人のアドバイスはすべて無視しろ」が印象的だったので紹介します。自分のやりたいことは何なのか、それを大学在学中に明確にして社会に出たときに思う存分やりまくるとするのが大事だと分かりました。藤山さんの地域に対する熱い思いが伝わる楽しい講義でした。

今回の講義の中で印象に残っているのは大きく二つある。一つは、「自分たちにしかできないこと、長崎に住んでいるからこそできることをやる」ということだ。今まで言われたことがあるようなことだが、地域にいることをプラスにとらえて地域だからこそできることに積極に取り組んでいくという考え方は持っていなかったし、地

方の地域に潜在能力があるというように感じたことはなかった。二つ目は、「悩んだときは大人に相談してもいい。でも言うことを聞く必要はない。自分のやりたいことを全部やる」ということだ。これは結構偏った考え方であるとも感じたが、説明を聞いて納得する部分も多かった。自分のやりたいことを実行する際には自分自身にすべての責任がある。よって始めたことは最後までやり切ろうとするだろうし、誰かのせいにして途中で投げ出すこともないと思う。今の時期から責任をもって行動を起こし、失敗や成功を積み重ねることで将来に繋がっていくと考える。コロナの影響もマイナスにとらえるのではなく、プラスにとらえて何かしらの行動を起こさなくてははいけないと感じた。

今回の講義では地域の宝というものについて考えることができた。本来私は東京の大学に進学して就職も東京や都会の方でしたいと考えていた。その理由としてなんとなくというのと、一度は東京の暮らしをしてみたいというのが挙げられた。しかし今回の講義を受けて、地域だからこそできること、地域の大学に入ったからこそできることに気づかされた。長崎県は人口の流出が著しく、これからもその状況は加速していくかもしれない。そんな中、自分たち大学生、長崎県に住む者として地域にある資源を利用して長崎県を活性化することが人口流出を食い止める近道だと思った。考えてみると長崎県は山に囲まれていたり、海岸線が長かったり、自然の条件が多くそろっていたり、歴史的な建造物など魅力がたくさんある。その地域に住んでいるからわからない魅力もまだまだあると思う。この長崎大学入学を機に、

前向きに地域貢献しようという思いが強くなった気がする。これからの大学生活の残りを地域と結びついた活動に着目して将来を考えていくのもいいと思った。

藤山さんは一回東京に行って成功していたのに、自分のやりたいことを考え直して帰ってきたのが、すごく思い切りが良いなと思いました。

今回の講義で一番印象に残ったのは、「大人は価値がないと無視される」ということです。確かに、小学校、中学校、高校では自分の立場が提示されていて、誰かから気にかけてもらえる環境が当たり前でした。しかしその中でもだんだん先生や親の手を離れていき、大学では自分から行動しないと、ただ単位を取るだけの無機質な学校生活になってしまいそうな気がします。特に今年はコロナウイルスの関係で、大学にも行けず不安な前期授業になってしまいました。今私は、自分から積極的にサークルのオンライン茶話会に参加したり、公務員サークルの中で新しい組織を立ち上げたりなど、この状況でも自分にできることを探してやっています。

今は危機感があるので行動を起こせているけれど、落ち着いてきたからといって怠惰な生活を送らないように、この4年間を大事に過ごしていきたいです。

藤山雷太講師の講義の中であった、「価値がないと、無視されるよ」という言葉にとっても衝撃を受けた。確かに、学生のうちは誰かに無視をされるということはなく、周りの大人たちから助けてもらうことは多々あるが、大人になると価値がなければ無視されることもあるということには驚いた。しかし、今から自分の価値について考え、

探することができるため、このことを学生のうちから知ることができて良かったと思う。

さらに、この価値を探すという行為は、地方創生を考えていくうえで非常に必要な力であると私は考える。まずは自分の価値を知ることができなければ、講義でもあったような、「地域でもできることではなく、地域だからできること」という、いわゆる長崎のポテンシャル、地域の価値を見出すことはできないのではないかと思う。そのためにも、このコロナの時期に一度、自分を見つめなおして、学生生活を過ごしていく中で自分にしかできないことが何かないかを考えてみようと思う。

私も大学卒業後は東京に就職して、一度は都会を見たほうが良いとずっと思ってきた。長崎地域学のこれまでの講義でも地域の可能性の話が何度かされたが、自分がずっと地方にいることの意味が見いだせず、結局私の考えは、一度は都会に出たほうが良いだろうというものだった。しかし、スターバックスの有田焼のタイルを見て、地域の可能性が大きいことを具体的にイメージできた。とても素敵で、地域のものには多くの人々を惹きつける力があるのだと感じた。

また、藤山氏の会社の考えがとても理想的で、私もこんな会社で働きたい！と強く思った。ブラック企業という言葉があるが、そんな言葉がなくなるほど従業員たちが働いて充実感を得られ、満足できる会社が増えたら日本人の自殺率は減少し、幸福度はぐんと増すだろうなと思った。初めてインターンシップに行ってみたいという気持ちが生まれた。

・私は藤山雷太講師の「地域の宝探しに取り組む若手起業家」という講義動画を視聴

しました。この講義動画では、若手が、都会ができる・持ってる力を地域ならではの力へと昇華していく大切さを中心に学びました。東京などの大都市が持ってる良さを地域といういろんな面で制限された中でも、できるというように真似したような形で良さを出していくのでは真に成長していかないので、地域だけが持っている良さを発見し、若者がそれらを自発的に見出し活用していくことでのみ成長していけると強く感じました。若者が地域の良さを見つけそれをつないでいくことはその地域の良さ、伝統工芸品や特産品、伝統技術を後世に伝え続けていくためにも非常に重要であって、藤山講師の設立したスチームシップという会社では地域のまだ見出されていないような宝、良さを未来へと繋げていくという目標を掲げており、これらを見つけることにより地域からの人口流出による地域の衰退などを防いでいくことにもつながっていくと考えられており、とても共感できる内容が多い講義でした。

とても元気がよく、人柄が良かった。ちょっと喋り方がチャライと思った。九州大学卒で、DeNA に就職し、賞をもらっていてとてもすごいと思った。

「価値がないと、無視される」という言葉を聞いて、色々と考えさせられた。

佐賀出身で、地元の有田焼で価値を見出し、地方から都会にチャレンジするという事にとっても感動した。スターバックスコーヒーの店舗の壁に有田焼を使っていた。実際に見てみたいと思った。

若いうちから多くのことにアンテナを向ける大切さを改めて気づかされた気がした。この人を見習わないといけないと思った。

今回の講義の中で、藤山さんが仰っていた3つの言葉が印象に残った。

特に「大人になると価値がないものは無視される」という言葉に衝撃を受けた。また、無視されないためには他が持たない希少性を生み出すことが重要だと学び、チームシップが行っている事業はまさにそれなのだなと思った。

次に「大人の言うことなんか聞くな」という言葉である。この言葉を聞いて、与えられたアドバイスにそのまま従うということは、自分が持つ希少性を腐らせてしまっているのだなと感じた。

最後に「コロナ禍はチャンス」という言葉だ。この特殊な状況だからこそリモート通信アプリやウーバーイーツなど、今まであまり注目されていなかった事業に注目が集まるようになったため、時代の中に価値を見出すことが成功につながるということを改めて理解することができた。

私は、この講義を通して学んだ3つの言葉から、この時代に私だからできることは何かを考え、チャンスが訪れた時、それを逃すことがないように世の中の流れを見ていこうと思った。

大人というのは価値がないと役に立たないなどの理由で無視されてしまうというのには驚いた。地域からでて都会で働くのもいいが、地域で働くことでポテンシャルが高くなり、価値を見出して働くことができるとわかった。この会社では

「宝探し」をもとに仕事を行っていて残業しなかったり、家族を第一に考える点でとても労働者に優しく、またふるさと納税に関しても7市に貢献していて画期

的な会社だと感じた。今回の講義を聞いて、これからの社会では画期的で労働環境も充実している会社を立ち上げることで、日本の「大学が最後の夏休み」などの考えを追い払い、日本の労働環境に関する悪いイメージを追い払えるのではないかと考えた。それに伴い、日本人の幸福度も高まるのではないかと考えた。前回の講義で海外や都会に挑戦するメリットをたくさん知ったが、今回は地元で働くメリットについて知ることができ、多様な視点から将来について考えることができるのでこれからしっかりと考えていきたいと思った。

私は小さい頃からずっと地域と呼ばれるところに住んで生活していた。当然地域には都会にあるものがないし、都会に生活することとは、利便性などにおいて欠けているところはあるが、その分、都会にないものも地域にはたくさんあると私思う。藤山雷太さんが取り組まれている地域の宝と呼ばれる場所とか、食事処もたくさんあるが、私は地域の一番の魅力は生活のしやすさ、心地よさだと思う。生活のしやすさは、交通などの物理的なことではなく、雰囲気、コミュニティなどの目には見えないが、魅力を感じることが地域には充実していると思う。しかしその魅力が伝わるには住むしかないので、伝わりにくいですが、それをなんとか伝われば過疎化を防ぐことはできるのではないかと感じている。

藤山雷太さんの話を聞いて、将来自分で考えて、なにか誰もやったことがないことをやりたいと感じていたことがさらに強くなった。大学生のうちにたくさん経験して、将来を面白くしたいと思う。

私はこの講義を視聴して多くの刺激を受けました。

まずは、大人になるとはというテーマでお話しされていた時の言葉で「価値がないと無視される」が印象に残っています。自分は「責任をとれるのが大人かな」などと思っていたので特に印象に残りました。誰かにとって価値のある存在になることはとても大切なのだと分かりました。

また、地域からどんどん情報を発信していくことを理念として挙げられていて感心しました。自分は、将来のことを考えたとき一度東京に出て経験や情報を得ようと考えていました。しかし、この講義を視聴して東京に一度出てからでなくいきなり地域から自分のやりたいことをやって、地域の良さを発信して貢献していくのもありなのかなと感じました。

最後に藤山さんがおしゃっていた言葉で「大人のアドバイスはすべて無視しろ」が印象的だったので紹介します。自分のやりたいことは何なのか、それを大学在学中に明確にして社会に出たときに思う存分やりまくるというのが大事だと分かりました。藤山さんの地域に対する熱い思いが伝わる楽しい講義でした。

私は今回の講義を受けてみて、藤山さんの熱量に驚いた。お話ししてくださる内容もとても面白く、この講義を視聴してよかったと感じた。

大人になるとは、「価値がないと、無視される」というところが、まず始めに面白いなと感じた。今、私は東進という塾でバイトをしているが、正社員の方も似たようなことを言っていてから、このことを覚えておきたいと感じた。この言葉を聞いてみて、

自分の価値とは何だろうと少し考えてみたが、今はあまりピンとくるものがなかった。
よく考えたら何かあるかもしれないが、この大学生活の中で何か一つでも自分の価値
を高めようと思った。

また、人との縁を大切にし、目の前のチャンスをつかみ取ることがとても大切であ
ると分かった。私は大学に入学してから、「人との縁はとても大切だ」ということを聞
く機会がとても多くなったと思う。前回の講義でも同じようなことを感じたと思うが、
やはり大学生活中でも、人とのつながりを大切に生きていきたいと感じた。

「大人からのアドバイスはすべて無視しろ！でもそのあとの行動は自己責任だ。」
と言っていたのがとても印象に残った。私はこの言葉を聞いて、前半の部分だけであ
ったら誰でもできると思うが、後半の部分までできる人が成長できる人なのではない
かと感じた。前半だけだとただの反抗期になってしまう。しかし、その後の行動を、
自分の責任だと感じてできるということは、自分に経験や自信がないとできないと思
ったから、そのようなことができる人になりたい。

「大人になる＝価値がないと無視される」という話から

確かに、納得できる話だった。大人になる前は、若さ自体が価値として皆に与えら
れているが、この価値はいずれ失われるものだ。だから、この価値を今の時期に、
別の価値へと投資する必要があると思う。

「価値＝希少性」という話から

この話は、先ほどの話の続きとして、出た話だ。藤山氏は、希少性を高めるために、東京から地方へ帰ってきたと話しており、地方でもできる、ではなく、地方だからこそできる、を目指していると話されていたが、そこに関しては、必ずしも、地方にこだわる必要はないと思う。前回の講義で元防衛省の方が話していたように、より広い世界で競争した方が、最終的に地方に帰ってきたときに、余裕をもって勝つことができると話されていたからだ。

「人との縁を大切に」、の話について、

自分は、いろいろあって、実はかなり多浪しており、その上、去年は休学していたので

藤山さんは、「だからこそ、今のメンバーと出会えている」と発想の転換をされていたのが印象深かった。

コロナ時代について、「全然違う＝チャンス」ととらえていたのが、面白いとおもった。

「地域の宝探しに取り組む若者たち」の講義を受けて、この講師の方の地域を活性化させようという気持ちや、それに対する工夫はすごいと思った。『地域「でも」できることをするのではなく、地域「だから」できることをする』というのは地域が選ばれる社会に近づくことにつながると思った。本講義で一番ためになったのは、「大人になるということは価値がないと無視されるようになる」ということ

だ。講師の方が価値を見出すために希少性のある地域での取り組みをされたように、自分も価値を見出していかなければいけないと思った。講師の方と私の出身が佐賀県で同じだったこともあり、有田焼を用いた取り組みをされたスターバックスを見たことがあった。このように、地域に密着した取り組みはとても良いと思った。講師の方が作られた会社の「地域の宝探しカンパニー steam ship」での制度もよくできていると思った。地域から未来を変えるという目標を持ち、地域と密着できるようなランチミーティングなども面白いと思った。このようなアイデアを持って自分なりの価値を見つけていくことが大切だと思った。

私はこの講義を視聴して長崎のポテンシャルの高さを実感しました。そして、大学生である今、今の自分に何ができるのかをかんがえました。私も東京などの都会に少し憧れの部分がありました。もちろんこの気持ちも大事にしたいです。しかし、それ以上に今まで住んで育ってきた長崎をもっと大事にしたいと思いました。そして自分がやりたいことはどんどんやっていこうと思いました。そして、その結果に対して、どう思うかは人それぞれバラバラですが、どんな結果になろうと自分の責任。これを大事にしていろいろなことに取り組んでいきたいと思いました。今回の講義で最も感じたことは自分の行動は自分で決める、大人に左右されずに自分の信じた道を突き進んでいくことの大切さだと思いました。大人の言うことは無視！これは単純におかしいと思うかもしれませんが、その言葉の中にある真意を汲

みとって行動していきたいと思いました。講義を受けることができて本当に良かったです。ありがとうございました。

(留学生)

私が、藤山さん話した「大人になるってどういうことだと思う」に対して、多く思い出すことがあります。私は中国からの留学生です。中国で生活するとき、たくさんの方が両親に頼んで、自分でする必要がありません。たとえば、入学の手順とか、SDカードの申請とか、ご飯の作るとか、家具を買うとか、全部両親が作ってくれたのです。しかし、長崎に来た後で、このようなものは全部で自分ではなりません。そして、私がもうアルバイトを探しました。自分の生活費を稼げます。これはあまり両親に依頼しないということではなくて、両親からの送金は少しの一部分です。私が、自分がしたことに責任を負えると自分を稼ぐということができるとき、大人になったと思います。私が、ウイスキーになかなか興味があります。今、日本から生産するウイスキーが世界でとても重要な分野を占拠しています。だから、未来で、ウイスキーについての仕事をしたいです。これは地域の宝探しだと思います。

地域活性化や地方創成が必要と叫ばれている現代、地域だからこそできることに視点を向け、チャレンジし続ける姿がとても輝いて見えた。自分のやりたいことを貫き、周りのアドバイスに流されることなく、自己責任で活動することは、一見簡単

に見えて、本当は難しいことだと思う。中途半端に行動することなく、自分の意志を貫く藤山さんの人生が羨ましく感じた。私は大学に入学し、コロナによる影響で対面で授業することもできず、友達も出来ない状況から、どんどんマイナス思考になっていた。今回の講義を受け、その考え方を取っ払って、自分から行動してみようと思うことが出来た。何か自分が本当に熱中できるものを見つけるために、沢山のことにチャレンジし、人との出会いを大切にしていこうと思った。周りの大人の意見に流されることなく、意志を貫くことが出来る価値のある大人になりたいと思う。この時期に、長崎地域学でエネルギッシュな藤山雷太さんの講義を受けることが出来て、本当に良かった。

よろしくお願い致します。

*****：

私は「社長になりたい！」という明確な目標がある訳では無いが、最早何が起こるか分からない世の中で、幅広い知見を持つ事は決して損にはならない。経営の知見、経営者の考えを少しでも知っていたい、知っていて必ず損はないと思ったので今回この講義を選択させて頂いた。実際に代表取締役社長という立場に立っている人間から教示を頂ける機会は中々無いので凄くありがたかった。九州教具、という組織名であったが、教具という言葉から想像がつかないくらい、ホテル経営やミネラルウォーター販売、ドローン販売など、経営事業は多岐に渡るようだった。船橋修一社長の目指す形として、重要な価値を占めるキーワードの1つは「永続性」であるようだ。いつもそこに当たり前にある、そういうものを作ることが大事だと言

う事だろうか。役に立つという事を考えた時に、確かに当たり前の存在は非常に重要な点かも知れない。当たり前が崩れた時に、人は頼りない存在となる事は何度も目にした事がある。余談として、社長は地域にとって価値のある企業を目指していると言っていたが、私は世界にとって価値のある企業を目指したいと思った。

「事業として地域に蔓延る課題を解決」。これは私が常に思ってる事でもあるが、問題は探せば常に至る所にあって、私はそれを解決していく人生を送りたい、そういう人になりたい。人の役に立ちながら貰える物を貰う、という持ちつ持たれつの関係は理想的である。前述のように事業としてそれを行おうとすれば、できる事は確実にボランティアより巨大な事になる。そうしてお金の多寡より文化の価値を重視しながら、物事を利用するのではなく変えていく、創っていく。実際に「駅前」という予め作られた物を利用する事を却下し、身近におこっている問題を解決すべく、波佐見町を自ら「変える契機をつくった」、波佐見町が変わった。その姿を私は本当に格好良いと思った。と同時に、私はそれを求めているとも思った。今ある物を利用するのでは無い、問題を根本から「変える、創る」事で解決する。それを私は色々な人間に求めているし、私もそうしたい。

経営のやり方について知りたいと思っていたが、やり方を聞くよりまず思ったのが、話が分かりやすかった。恐らくこれは代表にとって重要な資質だ。実際私は船橋社長を見て、人間として強固だと感じさせられた。協力を求める際、相手に期待感を持たせる事はとても重要だと思う。例え内容に不安を覚えさせても、期待がそれを上回れば協力は仰ぎやすい。もう一つ船橋社長を見て感じたのが、「言い淀むことがない」。人に「面白そう」と感じさせる要因だろう。真似たいと思った。

「課題を明確にする」。課題を洗いざらいにするという作業は非常に重要なポイントだと常々思っている。課題はぼーっとしていて目に見えるものではないし、目の前に散らばっているものでもない。課題を明確にできる、という時点で既に問題に対して非常に踏み込んでいる。逆に言えば課題を明確にしようとしなければ問題に足をつっ込む事はできないと私は思う。

具体的な理想を描くのが大事だという話があったが、私は具体的に思い浮かべた事がその通りにいかない事を何度も経験している。それでも多分描かなければならないのだ。社長の話を聞いて改めてそう感じた。

環境の話があったが、環境課題は身近に沢山感じる事ができるため課題を明確化する事は容易いだろうと思う。極端だが日常から環境的課題を見つけ明確化し対策を講じようという宿題を小学生にやっても多分できるだろう。

社会的包摂、これは非常に大事だと思った。皆を取り包めなければ、達成の障壁は大きなものとなることは想像に硬い。

今回の講義を通して、私はいくつもの良い知見を得た。ありがとうございました。